

## 2021年6月実績概要(メモ)

(2021. 7. 21)

定修の集中月にあたり、一時的な減産がみられるが、過半の製品では前年を上回る傾向が続く。

## 1. 生産動向

イ) エチレン 461,900トン

前月比 ▲12.3% (▲65,100トン)

前年同月比 +10.4% (+43,500トン)

生産増減に係る諸要因	<前月比>	<前年同月比>
日数増減	▲ 3.2 %	—
定修要因等	▲ 8.9 %	+ 8.9 %
能力増減	—	—
稼働率変動	▲ 0.2 %	+ 1.5 %
生産増減率	▲ 12.3 %	+ 10.4 %

稼働プラントの実質稼働率試算：前月93.5%\* → 当月93.3% ← 前年同月92.2%

定修プラント：前月 1社1プラント → 当月 2社2プラント ← 前年同月 3社3プラント

ロ) 主な石油化学製品

前月比では、日数減や定修規模差等から、LDPE、HDPE、PP、PS、MMAモノマー、EO、EG、AN、BR、キシレンなどの14品目がマイナス。塩ビ樹脂、SBRなどの3品目は主に定修規模差からプラスとなった。

前年比では、稼働率要因や定修規模差等からLDPE、PP、塩ビ樹脂、MMAモノマー、EO、SBR、トルエンなどの9品目がプラス。HDPE、SM、AN、キシレンなどの8品目はマイナスとなった。

## 2. 樹脂の生産・出荷状況(LDPE、HDPE、PP、PS)

イ) 生産

前月比では、日数減とともに定修規模の増加や稼働率要因等からLDPE、HDPE、PP、PSの4樹脂でマイナスとなった。

前年比では、LDPEは主に稼働率要因、PPは定修規模差から大幅なプラス。HDPE、PSは定修規模の増加もあり若干のマイナスとなった。

ロ) 国内出荷

前月比は、連休のあった前月に対して、ユーザー側の稼働日数の増加に伴い、引き合いが多くなりLDPE、HDPE、PP、PSともに二桁台の伸びとなった。

前年比は、前年の国内の工業生産も底打ちからの持ち直しの途上にあったことや消費動向でも下げ止まりから上向きの動きが出始めるも、汎用樹脂の出荷水準としては総じて低位であった。

これに対して、当年はLDPE、HDPE、PP、PSともにプラスとなった。分野別の出荷でもポリオレフィンでは押しなべて出荷が増加し、特にLDPEはフィルム分野、HDPEは中空成形分野、PPでは射出成形分野と押出成形分野の出荷の伸びが見られた。また、PSでも包装分野を中心として全般的に出荷が増加することとなった。

ハ) 輸出

前月比では、本年3月をピークとした輸出の伸長傾向も、直近では落ち着きを見せていたが、当月はHDPE、PP、PSでプラスとなり、LDPEのみがマイナスとなった。

前年比は、LDPE、PSではマイナスながらもHDPE、PPはプラスに転じることとなった。

ニ) 在庫

在庫量は、LDPE、HDPE、PP、PSで揃って減少した。在庫率(季節調整済)は前月に対して、LDPE、HDPE、PSで低下、PPは前月並みとなった。在庫水準としては、LDPE、HDPEはほぼ適正、PP、PSはややタイト気味となりつつある。

	前月対比増減量 (単位:トン)	季節調整済在庫率(単位:ヶ月)	
		5月末	6月末
LDPE	▲10,000	3.2	3.1
HDPE	▲20,400	3.3	3.0
P P	▲55,000	2.6	2.6
P S	▲15,900	1.4	1.2

以上

前月からの修正を\*で付記